

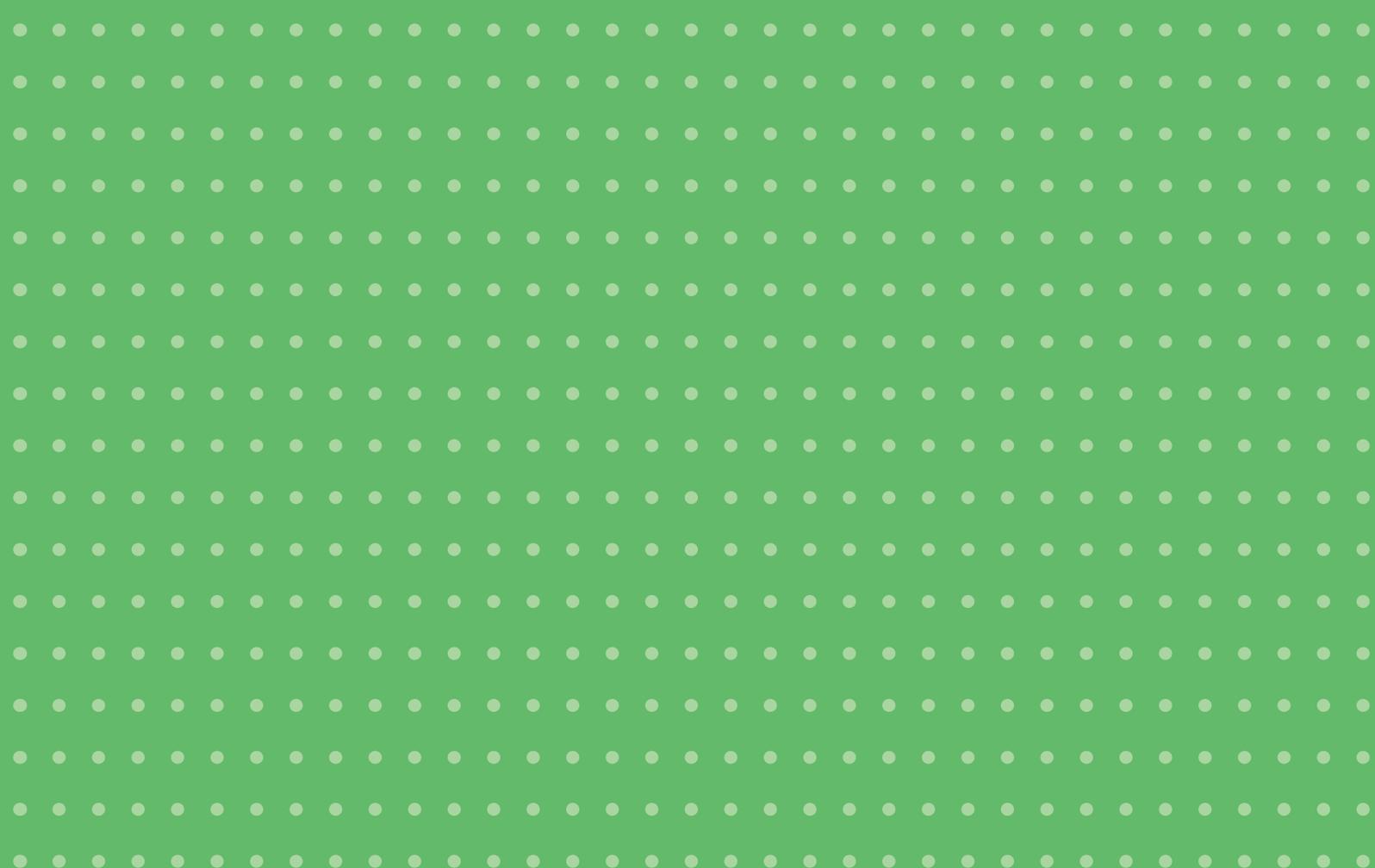
北海道  
大 学

附 属

図 書 館

年 報 2024

Hokkaido University Library  
Annual Report



# Contents

館長巻頭言 .....	1
令和5年度 Topics	
1. 教育学習支援 .....	2
2. 研究支援 .....	8
3. 社会貢献と国際化 .....	10
4. その他 .....	16
連携事業 .....	21
ガイダンス・講習会 .....	22
活動日誌 .....	24
学外講師派遣等 .....	26
統計 .....	27
図書館委員会名簿 .....	31
組織図 .....	32

## 北海道大学附属図書館のミッション

附属図書館は、北海道大学の4つの基本理念「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」に基づき、人類の知的資産である学術情報の集積・提供・発信を行い、未来に向けて、知の交流・創成の場として機能する。その実現のために、以下の目標を掲げる。

### 教育学習支援

豊かな情報資源と快適かつ刺激的な学習空間を提供し、自ら学び、課題解決に取り組むことのできる学生の育成を支援する。

### 研究支援

世界水準の研究を推進するため、本学の研究者が必要とする情報資源を持続的に利用できる環境を整備する。また、本学の研究成果の保存と発信に責任を負う。

### 社会貢献と国際化

北海道地区における唯一の総合大学の図書館として、他図書館に対する支援を行い、地域住民の生涯学習を支援する。また、海外の大学図書館と協力関係を構築し、交流を推進する。

### 組織運営

学生、教職員及び研究者と連携・協働し、大学における教育研究支援機能を強化する組織づくりを目指す。図書館職員は図書館や学術情報流通に関する専門性に加え、大学を取り巻く社会の環境変化に対応できる専門性を磨く。

## 附属図書館年報 2024 年版の 刊行に当たって

「附属図書館年報」は、附属図書館全体の概要紹介と活動の詳細な記録を報告するために、2014年から刊行を始め、本号で第11号となります。本年報は1年前の活動の記録を報告するもので、本号は2023年度の活動を報告しています。

新型コロナウイルスの大規模な流行が終わり、身の回りの風景もコロナ禍前の状態にほぼ戻ったように感じます。地下鉄の車内ではまだマスク着用の方が多く見られますが、全体としてみると、マスク姿もだいぶ少なくなったようです。

附属図書館もコロナ禍前の状態に戻すことができました。開館時間も元に戻り、館内利用の制限もなくなり、学外の方にも利用頂ける状態になりました。特に北図書館は、1年生の利用で連日賑わっています。

附属図書館が関わる研究支援という観点において、近年のキーワードは「オープン」という言葉だと思います。学術論文への「オープンアクセス」の重要性についてはつとに指摘されてきましたが、いよいよ2025年度から新たに公募を行う競争的研究費制度では、学術論文と研究データの即時オープンアクセスが義務化される予定になっています。

本学ではすでに、オープンアクセス方針や研究データポリシーを策定しており、今後は、即時オープンアクセスに向けた体制整備およびシステム改革を早急に実施する必要があります。本学の機関リポジトリであるHUSCAPの高度化および再構築が急務の課題と言えます。また同時に、即時オープンアクセスに対する教員および大学院生の意識の醸成も必要だと考えています。

加えて昨今では「オープンサイエンス」という言葉もよく聞かれるようになりました。この「オープンサイエンス」とは、「公的研究資金を用いた研究成果（論文、生成された研究データ等）について、科学界はもとより産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することでイノベーションの創出につなげることを目指した新たなサイエンスの進め方」を意味しています。この背景には、我が国全体の国際競争力の低下があることは否めませんが、しかしその根底には、社会の公的セクターにおける学術研究のすべては、研究の過程で得られたデータも含めて「公共財」であるという、これまで必ずしも重



附属図書館長

山本 文彦

視されてこなかった、極めて重要な考え方があるように思われます。そして、この論文や研究データの保存および活用という点において、附属図書館が果たすべき役割は非常に大きいと思います。

しかしながら、特に研究データの考え方については、研究分野によってかなり違いがあると思います。研究分野の特性を把握したうえで、研究データのオープンアクセスの在り方を検討する必要があります。また、論文と研究データの即時オープンアクセスだけでなく、研究分野によっては、適応的なオープンアクセスの充実を同時に図る必要があると考えています。

いずれにしても、システム面の問題とともに、かかる作業に必要な人材の育成および確保も急務であり、経費面での安定的で持続的な支援が不可欠です。研究戦略室、情報基盤センターと統合URA本部などの学内組織と連携して、まずはオープンアクセスに十分に対応できるように、附属図書館としての機能を高めていきたいと考えています。

本年報により、附属図書館が昨年度どのような活動を行ってきたのかをご理解頂くとともに、引き続き皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

# 令和5年度 Topics

## 1 教育学習支援

### A 学習支援

#### (1) アカデミック・スキルセミナー

本学学生の進路・修学相談や主体的な学習への支援を行うラーニングサポート室と協働し、アカデミック・スキルセミナーを企画運営しており、図書館は学習・研究スキルに関するセミナーを開催し、学修支援の一端を担った。

#### スタディ・スキルセミナー

学部学生1、2年次を主な対象として、大学での学習の基本となる「スタディ・スキル」を身に付けるためのセミナーをオンデマンド受講できるように配信した。図書館では、全学教育科目に提供している初年次学生向けの「図書館情報入門」の内容をベースにした「文献の探し方」の教材を用意し、学生が自由に教材にアクセスするオンデマンド形式のセミナーとして通年で実施した。その結果、「文献の探し方」は通年でスライド教材196回、動画教材63回の利用があった。



ポスター

#### (2) めざせ100万語！英語多読マラソン

##### 1) 参加状況

今年度の英語多読マラソン新規参加者は332名、累計参加者は3,123名となった。

また、達成証を進呈する節目の語数を新たに達成した参加者は、10万語が96名、100万語が1名だった。



案内チラシ

#### 2) 全学教育科目英語授業でのエクリーの活用

メディア・コミュニケーション研究院浜井祐三子教授、原田真見准教授の協力により、今年度も引続き英語多読マラソンシステム「エクリー」が、全学教育科目の英語授業で活用された。

#### (3) 「ようこそ北大へ！～新生活を彩る、役に立つ！おすすめ本～」展示



展示の様子

4月24日(月)～6月26日(月)、北図書館で新生向けに「ようこそ北大へ！～新生活を彩る、役に立つ！おすすめ本～」展示を行った。

北海道大学生生活協同組合(以下、「北大生協」)書籍部と連携して実施したもので、同じタイトルの本が北大生協では購入でき、北図書館では借りることができるよう、同時期に開催した。アカデミックスキル(レポート・論文の書き方、プレゼンのしかた等)、ライフスキル&コミュニケーション、新生活応援、北海道関連の4つのテ

マを設けて、本学の学生としての新たなスタートを応援するという企画で、併せて北大生協及び北図書館について紹介する広報ポスターやチラシ等も展示した。

期間中、展示した213冊中186冊が貸し出され、貸出回数は延べ556回となった。

#### (4)「全国読書マラソン・コメント大賞」展示



展示の様子（北図書館）



展示の様子（本館）

北大生協も加盟する全国大学生生活協同組合連合会では、大学生を対象に読書の感想を募る全国読書マラソン・コメント大賞を毎年開催している。そこで北大生協と連携し、学生が多様な図書に触れる機会を設けることを目的として、8月21日（月）～10月20日（金）に本館と北図書館で図書展示を行った。

過去（平成21年～令和4年）の受賞作のうち図書館に所蔵があるものを、本館34冊、北図書館133冊展示し、併せて北大生協から提供された同大賞のポスターや冊子等も展示した。

本館では延べ77回、北図書館では延べ251回の貸出があった。

#### (5)『「物理」「数学」「統計学」「化学」入門図書展示



展示の様子

7月10日（月）～8月30日（水）、北図書館で『「物理」「数学」「統計学」「化学」入門図書展示を行った。ラーニングサポート室と連携して実施したもので、総合教育部1年生の学習に役立つ所蔵資料に触れる機会を設けることを目的として、ラーニングサポート室へ推薦図書と推薦コメントを依頼し、展示した。

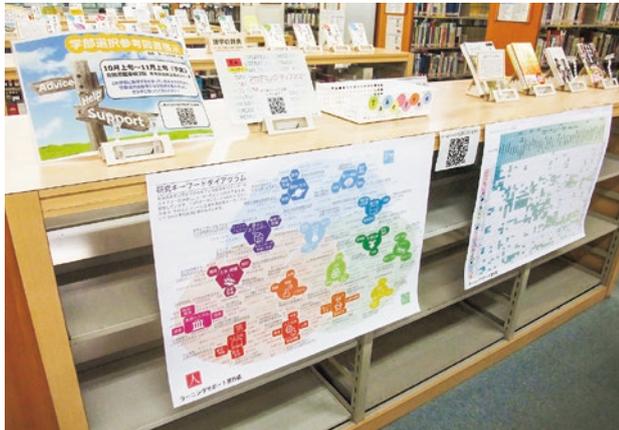
期間中、展示図書25冊中17冊が貸し出され、貸出回数は延べ37回となった。

#### (6) 学部選択参考図書展示

10月3日（火）～11月10日（金）、初年次学生が移行先の学部を決定する際に参考となるよう北図書館で「学部選択参考図書展示」を行った。これはラーニングサポート室と連携して実施したもので、協同して展示用図書の選定を行った他、ラーニングサポート室作成のア

カデミックマップを掲示した。

期間中、展示した37冊中17冊が貸し出され、貸出回数は延べ29回となった。



展示の様子

## (8) 大学院特別教育プログラム OGGs (オグズ) 展示



展示の様子 (本館)

## (7) 「外国語授業関連図書展示」

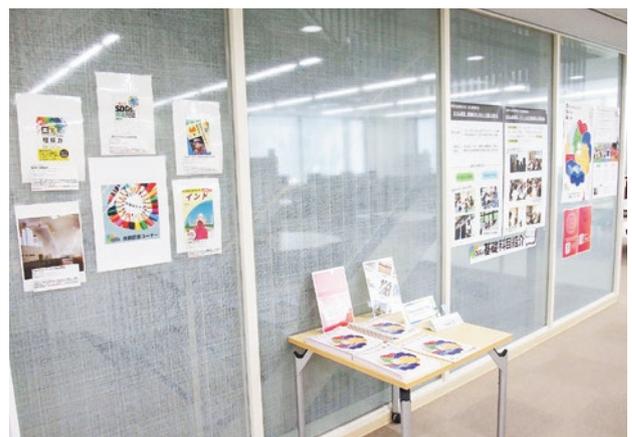


展示の様子

12月11日(月)～1月22日(月)、外国語授業担当の教員と連携して、外国語(英語+第二外国語)授業関連図書の特設コーナーを設置し、教員による推薦図書とその紹介文を展示した。語学学習用の資料だけでなく、その言語を使用する人々が暮らす諸外国の文化や社会を紹介するものである。

教員と図書館が連携して図書の紹介を行うことで、学生の学習意欲を高めるとともに、図書館の利用促進を目指した。

期間中、展示した20冊中8冊が貸し出され、貸出回数は延べ15回となった。



展示の様子 (北図書館)

4月～3月の1年間、本館及び北図書館において「大学院特別教育プログラム OGGs (オグズ)」展示を学務部国際交流課と共催した。

本展示は、これまでプログラムに関係する教員の研究室に所属する学生が中心であった参加者をより広く全学的に募るための広報活動の一環として、多数の学生が利用する図書館を会場に設定し、プログラムの紹介ポスターや推薦図書を紹介する掲示に加え、デジタルサイネージを設置して映像も投影した。

本館、北図書館ともに1年を通して配布資料が手に取られている様子が多く見られ、学内におけるプログラムの周知やその有用性についての理解促進につなげることができた。

## B | 情報リテラシー教育

### (1) 図書館情報入門

「図書館情報入門」は、初年次学生を対象にレポートや論文作成に必要な学術文献の効率的な入手方法の習得を目的に実施している。全学教育科目の「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）」及び「主題別科目（論文指導）」において、教員からの依頼により、授業の1コマ（90分）を使い対面形式で実施した。

実施後のアンケートでは、「満足」と答えた学生が83.9%であり、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると98%以上となった。

### (2) 「北大での学び」への協力

令和5年度より開講された初年次学生のための導入科目「北大での学び」（集中講義・必修）は、本学の歴史や学びの意義、情報リテラシー、安全教育、キャリアパス、卒業生との対話等、主体的な学習者としての基礎を確立するための授業（主にオンデマンド形式）である。

その「第3回 正しく安全に学ぶために」のうち、「情報リテラシー」部分の教材を図書館で担当し、「図書館情報入門」での実践を活かして作成、協力した。

### (3) 文献収集セミナー（法学編）

基礎からおさえる法情報の探し方

法学研究科法学政治学資料センターと連携し、図書館と法学政治学資料センターで所蔵している法学関連の図書や雑誌の網羅的な探し方や法情報収集の基礎を身に付けることを目的として対面形式で開催した。春と秋を合わせて5回実施し、計43名が参加した。

### (4) 国際機関情報の探し方セミナー

国連寄託図書館・EU情報センターとして国際情報の入手方法についてわかりやすく解説し、グローバルな課題に対する情報収集スキルを高めることを目的として開催した。11月20日（月）に「国連編」「EU編」を対面形式で開催、11月22日（水）に「OECD編」をオンライン形式で開催し、各編とも3名ずつ、計9名が参加した。

### (5) 各種データベース講習会

研究や学習、就職活動等に幅広く役立ててもらうことを目的として、本学が契約する学術文献データベースや文献管理ソフトの利用講習会を専門の外部インストラクターとの協働により開催した。「EBSCOhost」「Web of Science」「日経テレコン」「JapanKnowledge Lib」「Mendeley」「Zotero」等に加え、「CAS SciFinder-n」「Reaxys」といった分野に特化したデータベース等も含め、本館、北図書館や部局での対面形式に加え、オンライン形式を合わせて計28回開催した。

### (6) オーダーメイド講習会

教員からの依頼による「オーダーメイド講習会」は、個別の授業やゼミへの支援を目的とするオリジナル型の講習会で、教員と図書館職員とで内容を相談しながら実施している。部局図書室の独自の分野に特化した内容の講習会も増えており、文献管理ツールの使い方に重点をおくケースや書庫ガイダンスを実施する等、単なる文献の収集方法に留まらない多様な形態で、対面形式を中心に計32回実施した。

## C | 学生と協力した図書館づくり

### 北海道大学ハルトプライズ×北図書館連携展示



展示の様子

国連が支援する世界最大の学生ビジネスコンテストハルトプライズは、ビジネスアイデアについて英語でプレゼンテーションを行う大会である。北図書館では学生

団体「北海道大学ハルトプライズ」と連携し、同団体が開催する北海道大学ハルトプライズ学内大会に合わせて図書展示を実施した。アウトプットやビジネス的思考法等、国際舞台で活躍するために役立つ資料21点を推薦文と共に展示した。併せて同団体から提供された学内大会のポスターも掲示した。1月17日(水)～2月2日(金)に開催し、展示図書のうち11点が延べ13回貸し出された。

## D 障がいのある学生への支援



電子化データ作成の様子

図書館では、障がいのある利用者に安心して利用してもらえるよう設備や貸出物品を整えている。

加えて、印刷された図書や論文を読むことが困難な学生のために図書館の資料を電子化する「プリント・ディスプレイのある利用者のための資料電子化サービス」を本学学生相談総合センターアクセシビリティ支援室と協働して行っている。

今年度は、登録利用者である学生からの依頼(156件)に対して、電子化業務のピアサポーター(支援学生)34名が主体となり、113件の資料を電子化し提供した。

今年度からは登録利用者である学生の読書の機会がさらに充実するよう電子化の対象資料を学修や研究に直接関係のある資料に加えて本学の図書館(室)資料に拡張している。

また、全学教育科目「健康と社会」(講義題目:キャンパス・アクセシビリティ入門)において、電子化の法的な知識に関する講義と文献電子化実務の実習を2名の職員が担当した。同時に「カラーユニバーサルデザイン」

についても講義を行った。さらに、アクセシビリティ支援室主催のピアサポータースキルアップ研修において、近隣自治体における電子化サービスについての講義を2名の職員が担当した。

この他、電子化が完了したデータのうち70件について、国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスへ提供し、加えて国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システムへ登録した。これらにより、電子化データの共有化を促進している。

今後も電子化データの全国共同利用体制への積極的な参加を含め、他大学・他機関と情報交換及び情報共有を行い、問題解決やよりよいサービスの提供を目指す。

## E 電子書籍の整備

通常の図書資料費の他、新型コロナウイルス感染症対策に係る経費により、整備を行った。

購入タイトルの選定は、学生・教員等からの希望・推薦、学生の利用が多いと思われるKinoDen、Maruzen eBook Libraryの試読サービスの活用、冊子体の利用が多いものを調査・購入する等、様々な方法で行った。

その結果、利用可能な電子書籍の数は、部局経費で購入されたものも含め、約60,200点となった。(p.29「電子書籍提供タイトル数」参照)

主な電子書籍提供サービスであるKinoDenとMaruzen eBook Libraryにおいて、令和5年のアクセス数上位5タイトルは以下の通りである。

### KinoDen

順位	アクセス数	タイトル
1	623	就職四季報 総合版
2	394	会社四季報 業界地図
3	179	基礎から学ぶ統計学
4	151	必修アプリ超活用 Microsoft Teams 全事典 改訂版
5	113	データ解析のための統計モデリング入門

### Maruzen eBook Library

順位	アクセス数	タイトル
1	435	レベル別に学べる物理学 2 カラー版一改訂版
2	404	診療放射線技師国家試験対策全科 第14版
3	259	レベル別に学べる物理学 1 カラー版一改訂版
4	239	日本語学大辞典 = The encyclopedia of Japanese linguistics
5	184	現代数理統計学の基礎(共立講座 数学の魅力 11)

## F | どこでも返却（部局限定試行）

他館資料を全学のどこの図書館・室でも返却できるようにすることを目的としてWGを立ち上げ検討してきたが、10月2日（月）から、貸出冊数の多い本館・北図書館の貸出資料を部局図書室で返却できるよう試行を開始した。部局図書室へ返却された資料を、本館・北図書館へ「資料搬送便」を用いて搬送するサービスである。

初年である今年は4つの部局図書室（工学研究院（中央）、理学研究院（中央）、歯学研究院、獣医学研究院）を対象とし、閉室時にも返却できるようブックポストを所有していない図書室には小型のブックポストを支給した。搬送には折り畳み式コンテナ及び事務文書携帯用の袋を使用、もともと搬送便として使用していた黄箱、青箱とは異なる赤色のものを新規購入して外見で区別可能にする、搬送先の表示を見やすくする等、誤配等のミスを減らすよう工夫しながら進めた。また、図書館システムでの操作の検証やマニュアルの整備も行った。

試行の結果、対象の図書室が限定されているにも関わらず想定以上に広範囲の部局に所属する利用者が本サービスを利用していたことが分かった。また、部局図書室での取り扱い冊数自体は、本館・北図書館いずれも貸出全体の1%未満であり、各図書館・室とも作業量の負担が過度に増大することなく処理できることが判明した。

今後は、対象部局を増やして試行を継続し、全学へ拡大するための準備・問題点等を検討する。

## 2 研究支援

### A 研究者向け講習会の実施

#### (1) 学内他部署と共同で実施したセミナー

先端人材育成センター・I-HoP 及び創成研究機構 URA ステーション主催のセミナーに協力した。

#### Writing a Manuscript for Journal Submission (英語論文執筆セミナー)

主に国際誌に論文を投稿する若手研究者を対象に、論文の執筆・投稿に係るポイント等を解説するセミナーである。12月19日(火)、Zoom ウェビナーで実施し、他大学の学生等を含め、144名が参加した。図書館は広報活動に協力するとともに、「英語論文執筆に役立つ図書リスト」の作成と配布を行った。

#### Pivot-RP 講習会

研究資金獲得のため、特に若手研究者へ海外研究資金情報の収集方法を周知するもので、URA による助成金申請にあたっての注意点の解説と海外研究費情報データベース Pivot-RP について解説するセミナーである。11月30日(木)、Zoom ウェビナーで日本語及び英語により実施し、6名が参加した。図書館は広報活動に協力した。

### B 研究者向けサービス

#### (1) 文献検索相談・代行サービス



相互交流時の講演の様子

医系グループ(医学研究院・保健科学研究院・歯学研究院・薬学研究院の各図書室担当)では、本学の医系研究者を対象に、研究テーマに応じた先行研究調査を代行する「文献検索相談・代行サービス」を実施した。

本サービスは、検索テーマやキーワード等を研究者と相談の上、図書館職員が国内外のデータベースから文献調査を行う他、データベースの利用方法、文献管理や入手方法に関するアドバイスを提供するものである。平成28年7月のサービス開始以来、特に診療ガイドライン(GL)やシステマティックレビュー(SR)のための網羅的な文献調査を必要とする研究者を支援してきた。令和3年度にはそれまでの取組みが評価され、国立大学図書館協会賞を受賞している。

今年度は計29件の申込みがあった。申込者の所属部署の内訳は、医学研究院6件、保健科学研究院19件、歯学研究院1件、病院3件だった。申込目的の内訳は、GL作成が5件、SR作成が9件、その他の先行研究調査に関する文献検索が15件だった。

直近の成果としては、文献検索を代行し図書館職員が共著者となったシステマティックレビュー論文<sup>1,2</sup>が出版された。また、11月6日(月)のソウル大図書館との相互交流で講演を行った他、国立大学図書館協会 Web サイトに本サービスに関するインタビュー記事<sup>3</sup>が掲載された。

1. Kimura K, Narita H, Imai H, Akiyama H, Ishikawa S, Sawagashira R, Isoyama T, Nohara M, Kawamura M, Kono Y, Saito T, Kusumi I. Cardiovascular adverse reactions associated with escitalopram in patients with underlying cardiovascular diseases: a systematic review and meta-analysis. *Front Psychiatry*. 2023; 14: 1248397. doi: 10.3389/fpsyt.2023.1248397
2. Konya I, Shishido I, Nemoto M, Yano R. Risk factors of skin barrier dysfunction in older adults: A systematic review. *Jpn J Nurs Sci*. Published online March 22, 2024. doi: 10.1111/jjns.12597
3. 北海道大学「システマティックレビュー作成支援事業」。インタビュー・シリーズ 新たな知のケミストリー: LIBRARY 2025. 国立大学図書館協会. January 16, 2024. <https://www.janul.jp/ja/projects/ga/interview/hokkaido>

## C | 学術研究コンテンツの整備

### (1) 令和6年度学術研究コンテンツの整備

本学では、平成29(2017)年度分選定より特定経費(全学で使用する電子ジャーナル及びデータベース(以下、「学術研究コンテンツ」)整備のために配分されている経費)の上限が設定された。その一方で、毎年原価値上げや為替相場の影響により、学術研究コンテンツ整備にかかる経費が増大し続ける状況は変わっていない。

この状況に対応するため、令和3年度には電子ジャーナル・データベースについて、安定的な整備のための基本的な考え方や財源の在り方、さらには新たな研究支援の可能性等、全学的な観点から本学に必要な方策を検討するため、「電子ジャーナル等整備検討委員会」が新たに設置された。

この委員会でとりまとめられた提言に基づき、令和6年度特定経費による学術研究コンテンツについては、令和5年度タイトルを上限として図書館で選定を進めることが認められ、電子ジャーナルについては令和5年度購読タイトルをすべて継続することとなった。

学術文献データベースについても、部局に継続希望調査を行い、令和5年度購読のデータベースすべてにおいて複数の部局から継続希望があったため、すべてを継続することとなった。

### (2) バックファイルの整備

電子ジャーナルのバックファイルを導入することにより、研究者は、現在の研究成果だけではなく過去の研究成果にもアクセスすることが可能となる。

令和5年度は、新たに導入したバックファイルは無かったものの、令和4年度にWiley社のUBCMモデル(一定額を前払いすることにより、同社のバックファイル全タイトルが1年間利用可能となり、1年経過後には前払い額相当のバックファイルタイトルが買い取り可能となるモデル)を導入しており、令和6年1月末まで利用することができた。

## D | 学術成果刊行助成

本学では、学術的価値が高くかつ独創的な著作物の刊

行を促進し、学術研究成果の社会への還元及び学術の国際交流の推進に資することを目的として、平成20年5月に「学術成果刊行助成」を創設した。助成の対象は図書及び文系欧文誌の刊行である。

図書については5件の申請があり、以下の1件を採択した。

- ・当事者が語る「貧困とはなにか」／陳勝

また、欧文誌については、文系8部局を対象に募集を行い、以下の3誌を採択した。

- ・Acta Slavica Iaponica (スラブ・ユーラシア研究センター)
- ・Journal of Applied Ethics and Philosophy (文学研究院)
- ・Journal of the Faculty of Humanities and Human Sciences (文学研究院)

この事業により、これまでに図書を22冊、欧文誌を延べ5誌刊行した。刊行した著作は本館の教員著作物コーナー及び北図書館で利用可能である。また欧文誌は電子版が利用可能である。

## E | 北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)

### 研究成果リストの改修

HUSCAPでは、文献提供者ごとに自身が提供した論文とそのダウンロード数を表示する研究成果リストのページを用意している。メタデータのみ登録されていてダウンロードするファイルが無いものはこのページに表示されなかったが、論文が表示されるように改修した。

### Data Availability Statement に関する調査

雑誌掲載の条件として研究データ公開要請があったためHUSCAPで公開できないかとの相談を受けることが増えている。図書館がどのように研究者のデータ共有の支援を行うべきかを検討する材料とするため、本学研究者の研究データ公開状況及び出版社のData Availability Statement(根拠データの利用可能性に関する声明)の作成に関する出版社の方針について調査を行った。

## 3 社会貢献と国際化

### A 北方資料公開

#### (1) 北方資料掲載申請

全国からの依頼によるテレビ放送や図書等への写真掲載等の許可件数は100件あり、資料点数としては354点であった。内訳は以下の通り。

- ・ 放映許可件数：11件 資料数：26点
- ・ 掲載許可件数：89件 資料数：328点

#### (2) 北方資料データベースアクセスランキング

北方資料データベースのアクセス数上位資料は以下の通り。

順位	資料名（請求記号）	アクセス数
1	松前蝦夷地絵図（図類 647）	60
2	石狩国札幌市街之図（図類 858）	58
3	飛騨屋久兵衛石狩山伐木図（二）（軸物 54）	56
4	豊原支庁管内図（図類 2041）	50
5	開拓使札幌本庁仮庁舎と官員たち（複製）（A (b) 60）	48

※算出条件：書誌ページを開いたユニークユーザーの数



1 松前蝦夷地絵図  
（パブリックドメイン）



2 石狩国札幌市街之図  
明治10年代末  
（パブリックドメイン）



3 飛騨屋久兵衛石狩山伐木図（二）



4 豊原支庁管内図 昭和3年（1928）（パブリックドメイン）



5 開拓使札幌本庁仮庁舎と官員たち（複製） 明治4年（パブリックドメイン）

### (3) 北方資料企画展示

「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）」展



ポスター

9月15日(金)～11月19日(日)、本館玄関ロビーにて開催した。

当館が所蔵する「カラフトナヨロ惣乙名文書(ヤエンコロアイヌ文書)」は、カラフト西岸ナヨロの惣乙名(複数村落の統括者)をつとめたアイヌの氏族長の家に保管、伝来した文書群で、令和元年7月23日付けで国の重要文化財に指定された。

これを記念して令和2年度にパネル企画展示を行ったが、コロナ禍の拡大により残念ながら図書館自体が閉館となり来館者にご覧いただく機会を逸したため、今年度の本学ホームカミングデーに合わせ、改めて企画したものである。

この文書は18世紀から19世紀にかけてのカラフトアイヌと中国、日本との関わりを伝える極めて稀有な史料で、江戸時代から広く存在が知られており様々な記録に残されている。展示では、文書の原寸大パネルの他に、江戸時代にこの文書について言及した資料や時代背景に関するパネルを作成し紹介した。

## B | 国際連携強化

### (1) 国連寄託図書館、EU情報センター

図書館は、日本で3番目の国連寄託図書館であり、日本で8番目のEU情報センター(EU i)である。

#### 1) EUフレンドシップウィーク関連図書展示



展示の様子

毎年、駐日欧州連合代表部広報部と国内のEU情報センターが、ヨーロッパデー(5月9日)近辺に連携して行う「日・EUフレンドシップウィーク」のイベントに参加している。今年は、5月9日(火)～5月31日(水)に、本館オープンエリアで「北大図書館にある資料で見てみよう!～2023年EU議長国のスウェーデン・スペインについて～」と題して、EU議長国関連の図書展示(ブックログ公開含む)を行い、15冊が貸し出された。

#### 2) 北海道大学附属図書館×SDGs関連図書展示



展示の様子

国連広報センターが推奨する SDGs 活動の一環として、10月24日(火)～11月17日(金)に本館オープンエリアで、SDGs 関連図書展示(ブックログ公開含む)を行い、本学構成員に改めて認識してもらうとともに図書の利用促進を図った。今回は「2 飢餓をなくそう」をテーマに行い、21冊が貸し出された。

### 3) 世界人権宣言 75 周年記念図書展示



展示の様子

国連総会で世界人権宣言が採択されてから 75 周年を迎えたことを記念して、国連寄託図書館として 12月8日(金)～12月25日(月)に本館オープンエリアで「人権」をテーマに関連図書展示(ブックログ公開含む)を行い、14冊が貸し出された。

### 4) 国連広報センターとの協力

1月19日(金)に国連広報センター主催の国連寄託図書館研修会がオンラインで開催された。国連広報センター所長の講演、各機関の近況報告、参加図書館間のオンライン交流等のプログラムが組みられ、50機関67名が参加し、図書館からも2名が参加した。

## (2) 米国マサチューセッツ大学アマースト校・図書館長の来訪

5月9日(火)、マサチューセッツ大学アマースト校(UMass Amherst、以下、UMass)の Nandita S. Mani 図書館長が来訪された。

当日は、山本館長、稲葉副館長との懇談の後、本館に設置されている自動化書庫や、新型コロナウイルス感染対策で設置した個人学習ブースを含め、館内を見学された。



クラーク博士の契約書を閲覧する Mani 館長

また、本館が所蔵する、UMass 学長であったクラーク博士を札幌農学校へ招く際の契約書「札幌農学校教頭及び農業・化学・数学・普通英語教授として雇傭契約書(和文・英文)」、「雇傭契約調印につき照会/駐米公使吉田清成(ワシントン)」の原本をご覧になった。

なお、当館と UMass 図書館は、平成 26(2014)年 8 月に図書館交流に関する協定を締結しており、これまでも職員の交流を実施している。

## (3) ソウル大図書館との相互交流



ソウル大学校中央図書館前にて



国立中央図書館「実感書齋」でのデジタルブック閲覧体験

11月6日（月）～10日（金）、「令和5年度第1回北海道大学事務職員海外短期集中研修」が行われ、職員2名が参加した。この研修は、毎年、本学と韓国ソウル大学校が合同で開催している「HU-SNU ジョイントシンポジウム」の一環として実施されたもので、大学をめぐる最新動向について理解を深め、業務の質向上や国際対応力の高度化を図ることが目的である。今年度は、両大学の図書館職員が2名ずつ参加し、互いの大学の図書館等の見学や意見交換を行った。

11月6日（月）～7日（火）、ソウル大学校図書館職員と、特別参加のタイ・カセサート大学図書館職員1名を本学に迎え、研修を開始した。参加者は本館や北図書館、医学部図書館を見学し、研究者向けシステムティックレビュー作成支援や英語多読マラソン、新入生向けオリエンテーション、SNSを活用した広報等、幅広いトピックについて情報を共有しながら活発な意見交換を行った。また、公共図書館である札幌市図書・情報館も訪問することで、大学図書館にとどまらない多様な図書館サービスの実態を知る機会となった。

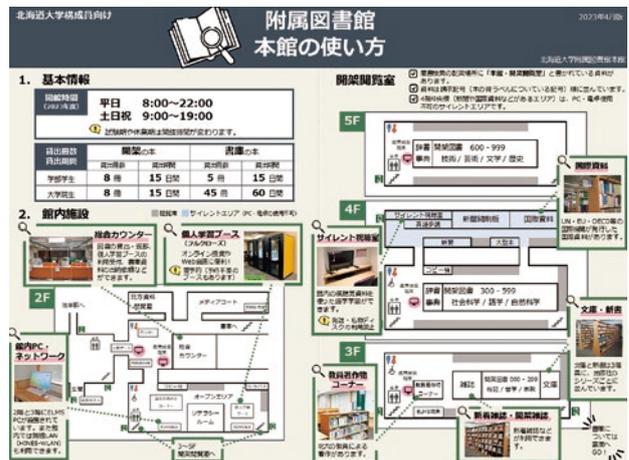
続く8日（水）からは研修の場を韓国・ソウルへと移し、9日（木）～10日（金）の2日間にわたり、ソウル大学校等で研修を継続した。ソウル大学校では、冠廷キャンパスの中心に位置する中央図書館本館や隣接する冠廷館、法学図書館を訪問した。どの施設でも、グループ学習やディスカッションが可能なスペース、個人学習空間、映像制作機器が利用できるマルチメディアルーム等、多様化する大学の学びに対応したサービスの充実が図られていた。さらに、10日に訪問した国立中央図書館では、クロスリアリティ（XR）技術等を活用した最先端の文化コンテンツを体験し、伝統的な枠組みにとら

われない未来志向型図書館サービスのあり方について知見を深めた。

参加した当館職員はスケジュール調整や資料作成等、事前準備に苦勞していたが、国外の図書館施設を訪問し現地の職員と交流を深めたことは、図書館職員としての視野を広げる貴重な機会となり、日々の業務を行う上での大きなモチベーションとなったようである。

## C 展示会・公開イベント

### (1)「本館の使い方」リーフレット作成



リーフレット（表）



リーフレット（裏）

4月～5月、本館カウンター前で「本館の使い方」リーフレットを配布した。本リーフレットは、学外利用者向けサービスの制限緩和による混雑防止のため、例年行っていた対面式ガイダンスツアーに代わるものとして作

成・配布したものである。

リーフレットは、新入生や本館を初めて訪れる学生、教職員を対象に、本館の基本的な使い方を理解してもらうことを目的とし、内容を「1. 基本情報」「2. 館内施設」「3. 利用にあたっての注意」で構成、本館内の各設備等やその使い方をフロアマップ、写真とともに紹介した。併せて留学生や外国人研究者向けに同内容の英語版リーフレットも作成した。

当初は5月までの配布を予定していたが、基本的な使い方の説明の際に学生や教職員に手渡す機会が多く見受けられたため、カウンターにおいて通年で配布を行い、利用案内に活用した。

## (2) 週替わり展示企画 「今週の北図書おすすめ本」



X (旧 Twitter) での公開の様子

北図書館では令和2年度から、週替わり展示企画「今週の北図書おすすめ本」を実施している。学生の興味を引くテーマや話題となっているテーマを取り上げる、利用者から随時募集しているリクエストによるテーマを採用する等、多様な図書を紹介することで読書意欲の向上を目的としている。利用者から応募のあったテーマにはさまざまなトピックが寄せられており、関心の高さが伺える。

展示図書はX (旧 Twitter) とブログで公開している。

## (3) ダイバーシティ&インクルージョンキャンペーン図書展示



展示の様子 (本館)



展示の様子 (北図書館)

11月～3月、本館及び北図書館において、「ダイバーシティ&インクルージョン図書展示」をダイバーシティ・インクルージョン推進本部 (DEI 推進本部) と共催した。

展示では、「“ジェンダー・セクシュアリティ”について考える」「“DEI”について考える」「差別やバイアス／偏見にきづく」「“生き方”を模索する」の4つのテーマを設け、本館と北図書館でそれぞれ展示図書を選書した。学内で募集した推薦図書と合わせて、本館では47冊、北図書館では48冊の関連図書を展示した。

本館、北図書館ともに多くの展示図書が貸し出され、学内における「ダイバーシティ&インクルージョン」についての認知向上に寄与することができた。

#### (4) 「本から学ぶアイヌ民族のことば、暮らし、歴史、交流:カンピヌカラアン ローイタク、ウレシバ、ウパシクマ、ネフキ、ウコアフカシー」展示



展示の様子

5月18日(木)～6月23日(金)、北図書館において、アイヌ共生推進本部と連携しアイヌ民族・文化に関連する企画展示を実施した。これは、初年次学生を対象とし1学期に集中講義として開講される必修科目「北大での学び」の開講時期に合わせて行ったもので、アイヌ民族への関心を高めるとともに、図書館資料の活用促進を目的としている。

期間中、展示した41冊中16冊が貸し出され、貸出回数は延べ30回となった。

## 4 その他

### A 外部資金獲得

#### (1) 古本募金

図書館では、自己収入獲得を目的として平成28年から「古本募金」事業に取り組んでいる。本館と北図書館に設置した回収ステーションに古本を入れてもらう他、部局図書館・室や研究室等での回収も行っている。

古本は業者が買取り、図書館の雑収入となる。1月～12月の買取冊数は9,762冊、買取金額は481,716円となった。

#### (2) 外部資金申請

北方資料原写真の高解像度画像化に取り組むため、「科学研究費補助金（研究成果公開促進費）データベース部門」に申請し、採択された（事業期間：2年）。申請に当たり、調査研究室の谷本晃久室員には研究代表者をご担当いただいた。

#### (3) ネーミングライツ



Sky Open Area

本学では、地域の活性化・人材定着への寄与や民間企業等との連携機会の創出・拡大、教育研究環境向上のため安定した財政基盤を確立することを目的として、令和5年1月にネーミングライツ事業取扱要綱を制定した。

これに基づき、令和6年2月1日（木）に本学とSky株式会社（以下「Sky」）が、大学施設のネーミングライツ（施設命名権）取得に関する「国立大学法人北海道大学ネーミングライツに関する契約書」を締結した。これにより、本館南棟2階オープンエリア及びリテラシールームの愛称を、「Sky Open Area」とした。なお、契約期間は令和9年1月31日までの3年間である。

今後、本学とSkyは連携して、「Sky Open Area」の

愛称が多くの学生に親しまれ定着するよう努めていくこととしている。

### B 調査研究室職員プロジェクト実施報告

4月に図書館職員からプロジェクトを募集したところ4件の応募があり、審査の結果、全ての実施が承認された。

各プロジェクトの活動目的等は次の通りである。

#### (1) 新北図書館構想

##### 1) 主な活動目的

新北図書館構想を検討する。令和4年度の検討内容を踏まえ、より具体性・実現可能性をもった構想を立て、概算要求のためのコンセプトにまとめる。

##### 2) 参加調査研究室員

菊池満史、小林果音、石崎陸、佐藤信世、浅倉菜々美、佐藤亜紀

##### 3) 主な活動成果

新北図書館構想について、主にMicrosoft Teamsにより参考になりそうな情報の共有や意見交換を行った。

各室員からは雑誌掲載記事等、図書館建築やデザインに関する情報の他、見学した京都大学桂図書館や立命館大学いばらきキャンパス図書室の情報提供があった。

令和4年度に策定したコンセプト案をベースに、各室員から提供された情報も鑑み、Teams、対面での検討を経て、本プロジェクトとしての新北図書館構想のコンセプトを策定した。

#### (2) 電子書籍利用活性化

##### 1) 主な活動目的

本学で利用できる電子書籍数は増えているが、十分に学生に浸透しているとは言い難い。学生への調査等により利用の広まっていない原因を探り、利用促進策を検討・実施する。利用活性化の対象とする電子書籍プラットフォームは、学生向けの資料が多いKinoDen及びMaruzen eBook Library。

##### 2) 参加調査研究室員

菊池満史、城恭子、樋口陽子、北野新治

### 3) 主な活動成果

#### (a) 学生への調査

学生が実際にどの程度、どのように電子書籍を利用しているかを対面及び調査用紙により調査した。調査数は23名である（内訳はインタビュー13名、調査票10名）。北図書館での聞き取り調査では、学習支援企画担当の協力で、資料電子化作業に従事しているピアサポーターに調査を行った。調査票による調査は、室員がそれぞれ所属する医学部図書館、水産学部図書館において、夜間開館のアルバイト学生の協力を得た。また本学インターシップに参加した学生にも調査を行った。

調査結果から得られた主な知見は次の通りである。

①電子書籍は使いにくいと感じ、紙の書籍の方を好むという学生が多い。代表的な意見として、学生は論文等をじっくり読み込む必要があるため、紙の方が扱いやすいというものである。最新の情報を迅速に入手する必要のある教員（研究者）とは異なる利用傾向が示唆される。ページ送り等について電子書籍の操作性の悪さについての意見も目立った。

②電子書籍のメリットは理解されている。

本文中の言葉の検索性の高さや重い本を持ち歩かなくてもよい電子書籍のメリットは理解されている。電子化を希望する資料として、かさばるものや重いものが挙げられた。

③電子書籍が本学で利用できることを知らない学生もいる。

調査に協力した学生の多くは図書館で働いており、比較的図書館の活動に詳しいと思われたが、意外な結果となった。図書館活動の広報は積年の課題であるが、地道な努力を続ける他はないと思われる。

調査数が少ないため、本学の学生全体の利用動向を示すものではないが、現時点では、学生レベルでは電子書籍よりも紙の方が好まれる等、電子書籍利用に関する実態が垣間見えたのが収穫といえる。

#### (b) 道立図書館利用登録会

本学での電子書籍の利用を増やすためには、利用のすそ野を広げることも必要である。調査では学術書以外の読み物への要望も見られたが、予算の制約もあるため、小説や実用書の多い公立図書館の電子図書館サービスを学生に紹介し、潜在的な需要に応えることも一案であると考えた。北海道立図書館の電子図書館サービスでは本学同様 KinoDen を使用しており、また他大学等へ出向

いての利用登録会も開催している。この利用登録会を1月16日（火）に北図書館で開催し、125名の利用登録があった。同時に紀伊国屋書店の協力で、KinoDenの利用説明会も開催し、利用登録者の8割程度が参加したとみられる。

### (3) 機関内流通情報のメタデータ管理手法とその利活用に関する調査研究

#### 1) 主な活動目的

北海道大学大学事業・活動情報共有システム（SSS-HU）に関する調査研究事項：

- ・データ生産及び収集に関する調査研究
- ・蓄積データ利活用に関する調査研究
- ・成果発表
- ・活動資金管理（フロンティア基金）

#### 2) 参加調査研究室員

清重周太郎、三上絢子、長嶋岳生、佐藤亜紀

#### 3) 主な活動成果

本プロジェクトは、大学運営を通じて機関内を流通する「情報」について、適切な収集・蓄積・利活用とはどのようなものかを再検討しつつ、図書館が得意とする情報組織化（メタデータ管理）の転用可能性を提示すべく、令和元年度より継続して取り組んでいる調査研究である（令和4年度は休止）。今年度はおもに4つの視点から活動を行った。

第1に情報の収集・蓄積の再検討として、附属図書館活動データ（2022年度）整備を目標として、情報源（リソース）の調査及び紐付け作業を行った。その結果、過年度に着目してこなかった統計データ及び業務システム内の格納データを整備対象とすることで、より充実した活動データを整備できると考えられた。一方で、規格の異なるデータが増えたことにより、過年度に行った「業務と財源（人件費）の紐付けの手法」が流用できず、整備の完了に至らなかった。既存手法へ合流させるための追加データの分割・変換について定義する必要がある。

第2に蓄積データの利活用の検討として、整備したデータを統計的に可視化するWebサイトの構築を試みた。具体的には、過年度に構築した「北海道大学大学事業・活動情報共有システム（SSS-HU）」格納の附属図書館活動データ（2020年度）からダミーデータを作成し、2つの方式によるグラフ化を設計した。まず蓄積データ同士の関連性を視覚的に捉えるための有向グラフ表示で

ある。次にメタデータそれ自体を統計データ個票として扱い、付与したタグ（属性情報）あるいはコスト（金額）を集計・円グラフとして表示するものである。UI（ユーザーインターフェース）の作りこみ等は行わなかったが、ひな形として要件に足る試作を以って完了とした。

第3に過年度活動の報告として、令和2～3年度実施のSSS-HU構築、附属図書館活動データ（2020年度）整備の意義及び手順について对外発表を行った。いずれも「セグメンテーションeポートフォリオと部署アセスメント構想」の標題で、10月に図書館総合展ポスターとして、3月に『大学図書館研究』への寄稿として発表したものである。

第4に蓄積データ利活用の方向性に関し、SSS-HUを生成系AIへの追加学習（ファインチューニング）データセットとする検討を行ったが、サービス／データ側ともに試行段階に満たないと判断した。プロジェクト期間中に本学公式の情報環境としてMicrosoft Copilotが利用可能となったため、同環境での活用を今後の課題としたい。

#### **(4) プリント・ディスアビリティのある方への文献提供に関する近隣自治体（公共図書館等）でのサービス事例調査および意見交換**

##### **1) 主な活動目的**

現在、図書館が実施しているプリント・ディスアビリティのある学生を対象とした文献電子化は、その支援対象を在学中の学生としているが、同学生が卒業した後に文献電子化を希望する場合にその受け皿が身近になれば、学習・研究を継続することが困難になるという課題がある。

また在学中においても、修学に関連しない趣味・教養的な資料は図書館における文献電子化の対象外となるため、その受け皿を外部に求める必要がある。これらの課題について検討すべく、近隣の公共・大学図書館等におけるプリント・ディスアビリティのある方へのサービス状況を調査・整理し、在学中から卒業後までの電子化文献利用の一層の円滑化を目指す。またサービス実施館との意見交換・相互交流を通して、文献電子化に係る技術の向上も図りたい。

なお、調査の中心はプリント・ディスアビリティのある方へのサービスとするが、図書館における障害者サービス全般についても射程におき、当館の障害者サービス

の再検討やさらなる活性化にも繋げたい。

##### **2) 参加調査研究室員**

小林泰名、長嶋岳生、清谷あさみ、工藤未来、佐藤信世、佐藤亜紀、山形知実

##### **3) 主な活動成果**

北海道立図書館、札幌市中央図書館、札幌市視聴覚障がい者情報センター点字図書館、日本赤十字社北海道支部点字図書センター、ふきのとう文庫の5つの施設を見学し、主にプリント・ディスアビリティのある利用者へのサービスについてお話を伺った。札幌市視聴覚障がい者情報センター点字図書館においては録音図書と拡大写本、ふきのとう文庫においては布の絵本と拡大写本を作成するボランティア団体の活動も見学した。

見学の結果、北海道立図書館、札幌市視聴覚障がい者情報センター点字図書館、日本赤十字社北海道支部点字図書センターではサピエの利用登録ができることがわかった。サピエに登録するとプリント・ディスアビリティのある利用者向けの電子資料を利用者自身が自宅等からダウンロードして利用することができる。サピエで利用できる「デージー図書」は文芸書や一般書が多く、教養や娯楽としての読書に適していると言われてきたが、2月には放送大学が教材テキストのデージーデータ提供を開始した。

利用者のリクエストによる専門書のテキスト化については、日本赤十字社北海道支部点字図書センターではプライベートサービスとして受けられるが、内容があまりに専門的だと対応が難しいかもしれないということであった。北海道立図書館を通して国立国会図書館に製作依頼ができるので、卒業生から要望があった場合はそちらを案内した方がよいかもしれない。

また、点字資料や録音図書等の資料は視覚障害の身体障害者手帳を持っている方なら送料無料で郵送貸出を受けられるが、それ以外の方の場合は送料がかかるため郵送サービスの利用は少ないこともわかった。

なお、ふきのとう文庫の運営する「ふきのとう子ども図書館」は子供向けの図書館であり、本学の学生や卒業生の利用という点では直接の関わりは薄い、「建物や施設のバリアフリーではなく文化的バリアフリーを目指す」という姿勢や、利用者のヨミの特性に合わせた図書作成の工夫等、学ぶところは多かった。

これらの見学を通して得た知見は、資料電子化業務の一環として「2023年度第2回ピアサポーター アクセ

シビリティ部門「スキルアップ研修」において報告し、資料電子化作業にあたる学生サポーターと意見交換を行った。

プリント・ディスプレイのある在学生・卒業生の利用について、今回見学した図書館等のサービスをまとめ、利用支援課に提供した。今後はこの情報を元に利用支援課学習支援企画担当と相互利用担当で利用者向けの案内を作成し、図書館ホームページ等で利用者に提供する。

今回の調査により、プリント・ディスプレイのある利用者へのサービスのみならず障害者サービス全般について、主な近隣図書館のサービスを明らかにすることができた。今後、当館での障害者サービスの再検討や利用者への案内等の材料として活用されることを期待する。

## C 広報活動

### (1) 公式 X (旧 Twitter)



公式 X (旧 Twitter)

新型コロナウイルス感染症への対応の一環で、開館状況等の迅速な告知を主な目的として令和2年4月21日に開設した。今年度も、主として図書館の利用方法や展示等イベントの案内について投稿を行った。累積ツイート数はリツイートも含めて1,380件、フォロワーは2,325名である(3月末時点)。

主に学生の関心に沿った、親しみやすいツイートを続

けていくことが今後の課題である。

URL : [https://twitter.com/Hokudai\\_Library](https://twitter.com/Hokudai_Library)

### (2) 公式 note



公式 note

職員が日々の業務内容や業務を通じて考えたこと等を紹介し、大学図書館やその業務に関心を持ってもらうことを目的として令和3年2月16日に開設した。

フォロワーは3月末時点で159名であり、図書館の「中の人」の生の声を読むことができる貴重な場となっている。今年度は、新たに以下の2本の記事を公開した。

- ・日々コツコツと前向きに取り組むことがDX(デジタル・トランスフォーメーション)に繋がります
- ・自己啓発休業取得体験記～情報学の力から研究を支える専門家を目指して大学院へ～

URL : [https://note.com/hu\\_library](https://note.com/hu_library)

## D DX 業務推進室の活動

本学では令和4年4月1日にDX業務推進室が設置され、北海道大学デジタル・キャンパス推進の基本理念と基本方針(令和4年6月6日総長裁定)や北海道大学事務DX戦略(令和4年7月25日役員会了承)の基で事務DXを推進している。

DX業務推進室は室員(専任)に加えて、令和4年7月1日からは室員(兼任)の追加、さらに令和4年8月1日からは拡大プロジェクトメンバー(兼任)の追加が始まり、今年度末までに延べ130名以上の事務職員が参加している。図書館事務部からは室員(兼任)と拡大プロジェクトメンバー(兼任)としてそれぞれ1名ずつ参加している。

スピード感をもって解決できるテーマに取り組む「すぐやるプロジェクト」等、令和4年度当初から実施しているプロジェクトもあるが、主要各プロジェクトについ

ては、主に令和4年度は課題を策定し、今年度から本格的に始動している。

主要プロジェクトはどの事務にも共通する基盤的な業務に関わる内容であり、今年度は図書館の室員と拡大プロジェクトメンバーも一部のプロジェクトに参加した。

この他に、図書館の室員がプロジェクトリーダーとして2件の「すぐやるプロジェクト」を進めた。

1件目は「事務用消耗品リサイクル」である。DX業務推進室がMicrosoft Teamsの本学職員用チームに事務用消耗品リサイクルチャンネルを設置し、出品者と希望者が直接やり取りする相互扶助の仕組みを確立させた取組みとなっている。5月24日（水）に開始し、3月現在約60の事務用消耗品が出品された。

2件目は「事務DX推進のための電子ブック利活用について」である。これは、前述の本学職員用チームに電子ブックチャンネルをリンクさせたオンライン図書展示企画であり、7月28日（金）に第1弾、2月27日（火）に第2弾を公開した。第1弾で公開した電子ブックは、本プロジェクトの公開前後でアクセス数が約3倍に増加している。

この他に、遠隔で対人対応ができるアバターロボットのモニター企画を1月23日（火）に本館事務室内で、3月4日（月）～8日（金）に北図書館事務室内で行った。

## E | 新型コロナウイルス感染症への対応

国内の感染状況を勘案し段階的に利用制限の解除を進めてきたが、5月8日（月）以降新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが変更となり、本学においても「新型コロナウイルス感染拡大防止のための北海道大学の行動指針」がレベル1からレベル0へ引き下げ、廃止されたことを受け、5月24日（水）より学外利用者サービスの制限を解除した。これにより、コロナ禍以前のサービス運用にほぼ復旧することとなった。

# 連携事業

令和5年度

No.	時期	内容	連携・連携先	学内外	備考（北大時報やX掲載等）
1	4/1～3/31	「世界展開力強化事業」広報協力（本館・北図書館）	学務部国際交流課	学内	
2	4/7～3/31	効果的な学習スキルを身につけよう！スタディ・スキルセミナー（学部1年生）	ラーニングサポート室	学内	X掲載 4/10
3	4/13、4/20、5/11	基礎からおさえる法情報の探し方 文献収集セミナー 法学編	法学政治学資料センター	学内	X掲載 4/10
4	4/24～6/26	「ようこそ北大へ！～新生活を彩る、役に立つ！おすすめ本～」展示（北図書館）	北海道大学生生活協同組合書籍部	学外	
5	5/9～5/31	EUフレンドシップウィークイベント「北大図書館にある資料で見てみよう！～2023年EU議長国のスウェーデン・スペインについて～」	EU情報センター	学外	
6	5/18～6/23	全学教育科目「北大での学び」関連展示「本から学ぶアイヌ民族のことば、暮らし、歴史、交流：カンピヌカラアン ローイタタ、ウレシバ、ウパツクマ、ネフキ、ウコアブカシー」（北図書館）	北海道大学アイヌ共生推進本部	学内	
7	7/10～8/30	【物理・数学・統計学・化学】入門図書展示（北図書館）	高等教育推進機構ラーニングサポート室	学内	X掲載 7/12
8	8/21～10/20	全国読書マラソン・コメント大賞連携図書展示（本館・北図書館）	全国大学生生活協同組合連合会	学外	
9	11/9、11/17	基礎からおさえる法情報の探し方「文献収集セミナー（法学編）」	法学政治学資料センター	学内	
10	11/15～3/14	ダイバーシティ&インクルージョン図書展示（本館・北図書館）	ダイバーシティ・インクルージョン推進本部	学内	X掲載 1/16
11	11/20	国際機関データを使って世界を知ろう！国連編	国連広報センター	学外	
12	11/20	国際機関データを使って世界を知ろう！EU編	EU情報センター	学外	
13	11/1～11/30	北海道大学附属図書館×SDGs関連図書展示	国連広報センター	学外	
14	11/29～11/30	Web of Science、EndNote、Pivot-RP講習会	統合URA本部	学内	X掲載 11/28
15	12/8～12/25	世界人権宣言75周年記念図書展示	国連広報センター	学外	
16	12/11～1/22	外国語教育センター特別企画 外国語授業関連図書展示（北図書館）	外国語教育センター	学内	X掲載12/11
17	12/19	Writing a Manuscript for Journal Submission[英語論文執筆セミナー]	先端人材育成センター・I-HoP	学内	
18	1/16	北海道立図書館利用登録会及びKinoDen利用説明会（北図書館）	北海道立図書館、紀伊國屋書店	学外	北大時報841号（2024.4月号）
19	1/17～2/2	北海道大学ハルトプライズ×北図書館連携展示（北図書館）	北海道大学ハルトプライズ運営委員会	学内	北大時報840号（2024.3月号）、X掲載1/18
20	12/14、12/21	北海道大学全学教育科目「健康と社会：キャンパス・アクセシビリティ入門」講師派遣	学生相談総合センター アクセシビリティ支援室	学内	
21	2/1	アクセシビリティ部門ピアサポーター スキルアップ研修 講師派遣	学生相談総合センター アクセシビリティ支援室	学内	

# ガイダンス・講習会

令和5年度

No.	時期	内容
1	4/3	図書館ガイダンス（於：法学部2年次進級ガイダンス）（対面）
2	4/4	図書館ガイダンス（於：公共政策大学院新入生オリエンテーション）（対面）
3	4/4	図書室利用ガイダンス（対面）（薬学部）
4	4/8～2/5	スタディ・スキルセミナー（オンデマンド）
5	4/13、4/20、5/11	基礎からおさえる！法情報の探し方@北大 文献収集セミナー法学編（対面）
6	4/18	オーダーメイド講習会（書庫ガイダンスのみ）（対面）（法学研究科：嶋拓哉教授）
7	4/19	オーダーメイド講習会（対面）（法学研究科：児矢野マリ教授）
8	4/20	オーダーメイド講習会（対面）（文学研究院：佐藤健太郎教授）
9	4/26	オーダーメイド講習会（対面）（文学研究院：小川佐和子准教授）
10	5/1、5/8	オーダーメイド講習会（対面）（保健科学研究院：宮島直子准教授）
11	5/11	オーダーメイド講習会（対面）（保健科学研究院：平野美千代准教授）
12	5/17	オーダーメイド講習会（対面）（経済学研究院：高井哲彦准教授）
13	5/23	オーダーメイド講習会（対面）（医学研究院：公衆衛生学 MPH コース）
14	5/23、5/25～5/26、5/31	CAS SciFinder-n 講習会（初級編（日・英）、中級編）（オンライン同時配信）（薬学部、農学部、工学系、理学部、環境科学院、北キャンパス、水産学部） 全5回
15	5/31～6/2	Reaxys 講習会（初級編、中級編）（オンライン同時配信）（薬学部、農学部、工学系、理学部、環境科学院、北キャンパス、水産学部） 全3回
16	6/6	文献検索ガイダンス（対面）（水産学部）
17	6/8、6/15	オーダーメイド講習会（対面）（病院薬剤部：熊井正貴副部長）
18	6/14～6/16	文献収集セミナー（文系の方向け）（基礎編、応用編）（対面） 全6回
19	6/16	E-Resource Guidance for International Students（対面）（歯学部）
20	6/28	eol 講習会（対面）（経済学研究院）
21	6/30、7/4	Mendeley 講習会（オンライン同時配信）
22	7/5	オーダーメイド講習会（対面）（歯学研究院：歯学研究概論）
23	7/6	オーダーメイド講習会（対面）（文学研究院：瀬名波栄潤教授）
24	7/11、7/18、7/25	オーダーメイド講習会（対面）（教育学研究院：近藤健一郎教授）
25	7/21	JapanKnowledge（ジャパンナレッジ）セミナー（対面） 2回
26	8/30	オーダーメイド講習会（書庫ガイダンスのみ）（対面）（経済学研究院：岡田美弥子教授）
27	9/25	基礎実習ガイダンス 参考文献の探し方（対面）（薬学部）
28	10/3	オーダーメイド講習会（書庫ガイダンスのみ）（対面）（法学研究科：西村裕一教授）
29	10/5	オーダーメイド講習会（対面）（保健科学研究院：高島弘幸准教授）
30	10/12	オーダーメイド講習会（対面）（農学研究院：田上貴祥助教）
31	10/17、10/24	オーダーメイド講習会（対面）（保健科学研究院：石田知也講師）
32	10/18	オーダーメイド講習会（対面）（教育学研究院：駒川智子准教授）

No.	時期	内容
33	10/20	CAS SciFinder-n オンライン講習会（オンライン同時配信）（薬学研究院）
34	10/20	EBSCOhost 講習会（対面・オンライン同時配信）
35	10/23	オーダーメイド講習会（対面）（薬学研究院：薬物動態解析学・臨床薬理学）
36	10/25	オーダーメイド講習会（対面）（工学研究院：松井良太准教授）
37	10/26	オーダーメイド講習会（対面）（法学研究科：曾野裕夫教授）
38	10/27	オーダーメイド講習会（対面）（農学研究院：齋藤陽子准教授）
39	10/27、10/30～10/31	文献収集セミナー（文系の方向け）（国内文献編、海外文献編）（対面） 全6回
40	11/8	eol 講習会（対面）（経済学研究院）
41	11/9、11/17	基礎からおさえる！法情報の探し方@北大 文献収集セミナー法学編（対面）
42	11/17	文献管理ツール「Zotero」講習会（対面・オンライン同時配信）
43	11/20	国際機関情報の探し方セミナー（国連編・EU編）（対面）全2回
44	11/22	国際機関情報の探し方セミナー（OECD編）（オンライン同時配信）全2回
45	11/29	海外論文の検索と文献管理まで「Web of Science + EndNote オンライン」講習会（オンライン同時配信）
46	11/30	Pivot-RP 講習会（オンライン同時配信）
47	12/6	企業・業界情報調べ方セミナー：日経テレコン（オンライン同時配信）
48	12/7	Reaxys オンライン講習会（オンライン同時配信）（薬学研究院）
49	12/7、12/13	オーダーメイド講習会（対面）（歯学研究院：長谷部晃教授）
50	12/19	Writing a Manuscript for Journal Submission [英語論文執筆セミナー]（オンライン同時配信）
51	1/16	オーダーメイド講習会（対面）（農学研究院：実山豊講師）
52	2/6～2/8	ツールでラクラク一歩先行く！医学情報探索オンラインセミナー（オンライン同時配信・オンデマンド）（医系グループ）全3回
53	2/7	GitHub 講習会（対面・オンデマンド）
54	通年	図書館情報入門（学部1年生）（対面） 全53回
55	通年	図書館30分セミナー（書庫利用ガイダンス編）（対面） 全25回
56	通年	図書館30分セミナー（これから始める論文収集編）（対面） 全9回
57	通年	30分講習会（対面）（医系グループ） 全6回

# 活動日誌

令和5年度

時期	内容
4月	4/11 第65回北海道地区大学図書館職員研究集会第1回企画委員会（利用支援課課長補佐）（オンライン）
	4/13 第55回国立大学図書館協会北海道地区協会総会（館長、事務部長、管理課長、利用支援課長、研究支援課長）（帯広畜産大学、オンライン）
	4/17～4/28 第4回図書館情報システム仕様策定委員会（メール審議）
	4/24～6/26 「ようこそ北大へ！ ～新生活を彩る、役に立つ！おすすめ本～」展示（北図書館）
5月	5/9 マサチューセッツ大学アマースト校 Nandita S. Mani 図書館長来訪
	5/9～5/31 EUフレンドシップウィークイベント「北大図書館にある資料で見てみよう！ ～2023年EU議長国のスウェーデン・スペインについて～」
	5/18 第65回北海道地区大学図書館職員研究集会第2回企画委員会（利用支援課課長補佐）
	5/18～6/23 全学教育科目「北大での学び」関連展示「本から学ぶアイヌ民族のこたば、暮らし、歴史、交流：カンピヌカラアン ローイタッ、ウレシバ、ウバシクマ、ネツキ、ウコアノカシー」（北図書館）
	5/19～5/31 第5回図書館情報システム仕様策定委員会（メール審議）
	5/22 国立大学図書館協会令和4年度春季理事会（館長、事務部長、管理課長、利用支援課長、研究支援課長）（東京大学、オンライン）
	5/29～5/31 NII学術情報基盤オープンフォーラム2023（事務部長、研究支援課長）（オンライン）
6月	6/9 私立大学図書館協会東地区部会研究講演会「アフターコロナの大学図書館：電子図書館とデジタルアーカイブ」（事務部長）（オンライン）
	6/19 北海道地区大学図書館協議会令和4年度第4回幹事館会議（利用支援課長、利用支援課課長補佐）（本学、オンライン）
	6/22～6/23 第70回国立大学図書館協会総会（館長、事務部長、管理課長、利用支援課長、研究支援課長）（東京、オンライン）
	6/23 国連資料ガイダンス（利用支援課）（オンライン）
	6/26 第1回学術研究コンテンツ小委員会（オンライン）
	6/26 学術フォーラム「オープンサイエンス、データ駆動型研究が変える科学と社会—G7コミュニケを読み解く」（研究支援課長）（オンライン）
	6/27 アジア資料目録作成ワークショップ サンスクリット編（管理課）（オンライン）
7月	7/5～7/31 2022年度北図書館貸出・視聴回数ランキングTOP20（ポスター掲示）（北図書館）
	7/10～8/30 「物理・数学・統計学・化学」入門図書展示（北図書館）
	7/14 EUIセミナー（利用支援課）（オンライン）
	7/18 第254回図書館委員会（令和5年度第1回）（オンライン）
	7/18～9/29 企画展示「教員選定図書」（工学研究院中央図書室）
	7/24 第65回北海道地区大学図書館職員研究集会第3回企画委員会（利用支援課課長補佐）
8月	8/9 第65回北海道地区大学図書館職員研究集会（事務部長、利用支援課長、利用支援課課長補佐、管理課、利用支援課、研究支援課）（札幌）
	8/21 第73回北海道地区大学図書館協議会総会（館長、事務部長、利用支援課長、利用支援課課長補佐）（札幌）
	8/21～10/20 全国読書マラソン・コメント大賞連携図書展示（本館・北図書館）
	8/21～9/4 第1回図書選定小委員会（メール審議）
	8/24～8/30 第255回図書館委員会（令和5年度第2回）（メール審議）
	8/25 IDE大学セミナー「大学教育と図書館」（事務部長）（オンライン）
9月	9/4～9/8 北海道大学インターンシップ（1名）
	9/7～9/8 第63回北海道図書館大会（利用支援課長、利用支援課課長補佐）（札幌）
	9/7～9/8 AHEAD JAPAN 第9回全国大会（利用支援課）（立命館大学）
	9/15 北海道地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー（利用支援課、講師：事務部長）（本学、オンライン）
	9/15～11/19 「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）」展
	9/25 第3回JPCOAR Webinar「学術情報流通を取り巻く現在の状況」（事務部長、研究支援課長）（オンライン）

時期	内容
10月	10/2～1/10 企画展示「資源・再生可能エネルギー」(工学研究院中央図書室)
	10/3～11/10 学部選択参考図書展示(北図書館)
	10/24 第1回学術成果刊行助成審査委員会(オンライン)
	10/26 国立大学図書館協会秋季理事会(館長、事務部長、管理課長)(オンライン)
	10/27 防災訓練(本館)
	10/30 第2回学術研究コンテンツ小委員会(オンライン)
11月	11/1～11/30 北海道大学附属図書館×SDGs関連図書展示
	11/10 第65回北海道地区大学図書館職員研究集会第4回企画委員会(利用支援課課長補佐)
	11/15～3/14 ダイバーシティ&インクルージョン図書展示(本館・北図書館)
	11/16～11/30 第2回図書選定小委員会(メール審議)
	11/17 国立大学図書館協会北海道地区協会事務部課室長会議(事務部長、管理課長、利用支援課長、研究支援課長)(本学、オンライン)
	11/28 SPARC Japan セミナー 2023(事務部長)(オンライン)
12月	12/8 北海道地区大学図書館協議会第1回幹事館会議(利用支援課長、利用支援課長補佐)
	12/8 第7回JMLA学術集会(研究支援課)(オンライン)
	12/8～12/25 世界人権宣言75周年記念図書展示
	12/11～1/22 外国語教育センター特別企画 外国語授業関連図書展示(北図書館)
	12/12 国立大学図書館協会シンポジウム「オープンサイエンス時代の大学図書館員像:これからの〈人材〉構築にむけて」(利用支援課長)(オンライン)
	12/19 第256回図書館委員会(令和5年度第3回)(オンライン)
1月	1/10 第2回学術成果刊行助成審査委員会(オンライン)
	1/11～4/11 企画展示「進学・就職・キャリアデザイン」(工学研究院中央図書室)
	1/17～2/2 北海道大学ハルトプライズ×北図書館連携展示(北図書館)
	1/16 北海道立図書館利用登録会及びKinoDen利用説明会(北図書館)
	1/22 大学図書館シンポジウム「著作権法と大学図書館～令和3年の著作権法改正を中心に～」(利用支援課長)(オンライン)
2月	2/16 第97次国立七大学附属図書館協議会(館長、副館長、事務部長、管理課長、利用支援課長、研究支援課長)(オンライン)
	2/21 国立大学図書館協会北海道地区協会企画事業「Chat GPTを使い倒そう」(本学、オンライン)
	2/28～3/27 就活応援! 就活・お仕事関連図書展示(北図書館)
3月	3/4 第3回学術研究コンテンツ小委員会(オンライン)
	3/6～3/13 第3回図書選定小委員会(メール審議)
	3/7 学術情報流通の在り方に関する連絡会主催連続セミナー第2回「オープンアクセスの国際動向とダイヤモンドOAの展開」(利用支援課長、管理課課長補佐、研究支援課)(オンライン)
	3/8 国立大学図書館協会システム委員会 勉強会企画「電子資料共有のための基礎知識:ILL・著作権・発見可能性」(利用支援課長、管理課課長補佐)(オンライン)
	3/18 英国オープンアクセス政策対応等調査報告会(研究支援課)(オンライン)
	3/19 学術情報流通に関する連続セミナー第3回「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」(利用支援課長、管理課課長補佐、研究支援課)(オンライン)
	3/21 第66回北海道地区大学図書館職員研究集会第1回企画委員会(利用支援課課長補佐)
	3/22 第1回質保証小委員会、第257回図書館委員会(令和5年度第4回)(オンライン)
通年	週替わり展示企画「今週の北図書おすすめ本」(北図書館)

# 学外講師派遣等

令和5年度

No.	時期	報告者	内容	発表先・媒体	連携・連携先	学内・学外	種別（寄稿、発表、講師、論文等）
1	5/21	三上絢子	論文根拠データの公開状況測定に向けた調査手法の確立	情報知識学会 第31回年次大会	JPCOAR 作業部会	学外	発表（共同発表）
2	5月	三上絢子	論文根拠データの公開状況測定に向けた調査手法の確立	情報知識学会誌 33（2）：242-247、2023	JPCOAR 作業部会	学外	論文（上記の予稿集）
3	10月	清重周太郎	セグメンテーション e ポートフォリオと部署アセスメント構想	第25回図書館総合展		学外	発表
4	3月	清重周太郎	セグメンテーション e ポートフォリオと部署アセスメント構想—北海道大学附属図書館活動の分析を例に—	大学図書館研究（125）：2162、2024		学外	論文

# 統計

## 基盤統計

令和5年度雑誌所蔵・受入種類統計（対象期間：R5.4.1～R6.3.31）

区分	所蔵種類数 (令和6年3月31日現在)			受入種類数(令和5年度)								
	和	洋	計	購入			寄贈			合計		
				和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計
附属図書館(本館)	22,021	14,215	36,236	143	28	171	341	21	362	484	49	533
附属図書館(北図書館)	932	635	1,567	124	5	129	11	1	12	135	6	141
文学研究院・文学院・文学部	2,015	674	2,689	210	141	351	451	10	461	661	151	812
法学研究科・法学部	650	287	937	144	160	304	262	19	281	406	179	585
経済学研究院・経済学院・経済学部	998	232	1,230	99	12	111	241	22	263	340	34	374
医学研究院・医学院・医学部	3,264	2,485	5,749	164	23	187	137	3	140	301	26	327
歯学研究院・歯学院・歯学部	580	501	1,081	26	4	30	106	11	117	132	15	147
工学研究院・工学院・工学部	2,608	2,710	5,318	90	19	109	98	5	103	188	24	212
獣医学研究院・獣医学院・獣医学部	504	835	1,339	17	19	36	30	7	37	47	26	73
情報科学研究院・情報科学院	392	454	846	52	4	56	8	0	8	60	4	64
水産科学研究院・水産科学院・水産学部	3,239	2,224	5,463	62	10	72	129	12	141	191	22	213
地球環境科学研究院・環境科学院	211	276	487	22	3	25	14	0	14	36	3	39
理学研究院・理学院・理学部	753	3,500	4,253	42	42	84	18	87	105	60	129	189
薬学研究院・薬学部	163	131	294	7	0	7	24	0	24	31	0	31
農学研究院・農学院・農学部	5,289	3,500	8,789	158	22	180	189	50	239	347	72	419
先端生命科学研究院・生命科学院	13	11	24	6	0	6	0	0	0	6	0	6
教育学研究院・教育学院・教育学部	717	133	850	106	13	119	69	2	71	175	15	190
メディアコミュニケーション研究院、国際広報メディア・観光学院	63	33	96	14	1	15	3	0	3	17	1	18
保健科学研究院・保健科学院	804	131	935	34	1	35	18	1	19	52	2	54
公共政策大学院	2	0	2	3	0	3	0	0	0	3	0	3
低温科学研究所	833	947	1,780	14	0	14	38	8	46	52	8	60
電子科学研究所	20	6	26	12	1	13	0	0	0	12	1	13
遺伝子病制御研究所	5	21	26	2	0	2	1	0	1	3	0	3
触媒科学研究所	87	381	468	11	4	15	6	0	6	17	4	21
スラブ・ユーラシア研究センター	245	1,711	1,956	21	154	175	28	19	47	49	173	222
情報基盤センター	52	6	58	3	0	3	0	0	0	3	0	3
国際連携機構	2	1	3	2	0	2	1	0	1	3	0	3
高等教育推進機構	82	71	153	6	6	12	3	2	5	9	8	17
大学院教育推進機構	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1
総合博物館	853	418	1,271	1	0	1	2	0	2	3	0	3
北方生物圏フィールド科学センター	18	66	84	18	2	20	1	0	1	19	2	21
大学文書館	316	12	328	66	0	66	24	1	25	90	1	91
アイヌ・先住民研究センター	121	12	133	3	0	3	3	0	3	6	0	6
人間知・脳・AI研究教育センター	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1
創成研究機構	5	0	5	1	0	1	2	0	2	3	0	3
計	47,858	36,620	84,478	1,684	675	2,359	2,258	281	2,539	3,942	956	4,898

令和5年度蔵書・受入統計（対象期間：R5.4.1～R6.3.31）

区分	所蔵冊数 (令和6年3月31日現在)			受入冊数(令和5年度)											
				購入			寄贈			製本			総計		
	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計
附属図書館(本館)	1,032,218	883,670	1,915,888	3,856	321	4,177	1,257	148	1,405	251	22	273	5,364	491	5,855
附属図書館(北図書館)	266,283	116,828	383,111	2,991	144	3,135	101	8	109	20	0	20	3,112	152	3,264
文学研究院・文学院・文学部	102,691	45,613	148,304	755	214	969	1,447	614	2,061	169	119	288	2,371	947	3,318
法学研究科・法学部	7,690	1,701	9,391	79	62	141	282	191	473	308	222	530	669	475	1,144
経済学研究院・経済学院・経済学部	6,576	2,367	8,943	93	23	116	5	1	6	171	58	229	269	82	351
医学研究院・医学院・医学部	52,845	93,552	146,397	315	44	359	86	72	158	100	1	101	501	117	618
歯学研究院・歯学院・歯学部	22,901	16,002	38,903	174	0	174	31	0	31	37	4	41	242	4	246
工学研究院・工学院・工学部	105,857	100,651	206,508	883	80	963	608	87	695	183	34	217	1,674	201	1,875
獣医学研究院・獣医学院・獣医学部	8,761	23,326	32,087	26	3	29	10	13	23	4	16	20	40	32	72
情報科学研究院・情報科学院	13,637	17,021	30,658	93	3	96	79	7	86	0	0	0	172	10	182
水産科学研究院・水産科学院・水産学部	73,639	54,785	128,424	98	13	111	14	7	21	27	14	41	139	34	173
地球環境科学研究院・環境科学院	6,307	7,050	13,357	39	16	55	5	2	7	5	0	5	49	18	67
理学研究院・理学院・理学部	48,035	173,603	221,638	261	91	352	518	95	613	9	15	24	788	201	989
薬学研究院・薬学部	8,040	3,655	11,695	87	1	88	79	34	113	10	0	10	176	35	211
農学研究院・農学院・農学部	127,184	96,885	224,069	194	22	216	171	63	234	58	24	82	423	109	532
先端生命科学研究院・生命科学院	241	180	421	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	4
教育学研究院・教育学院・教育学部	13,987	2,868	16,855	460	90	550	93	12	105	56	0	56	609	102	711
メディアコミュニケーション研究院、国際広域メディア・観光学院	2,336	2,842	5,178	1	0	1	110	19	129	8	0	8	119	19	138
保健科学研究院・保健科学院	28,260	3,967	32,227	262	1	263	23	0	23	32	0	32	317	1	318
公共政策大学院	0	0	0	6	0	6	3	3	6	0	0	0	9	3	12
低温科学研究所	10,545	24,374	34,919	3	1	4	3	11	14	11	2	13	17	14	31
電子科学研究所	603	516	1,119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺伝子病制御研究所	68	43	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
触媒科学研究所	4,831	16,803	21,634	0	0	0	5	22	27	0	0	0	5	22	27
スラブ・ユーラシア研究センター	3,571	76,786	80,357	30	252	282	878	4,330	5,208	9	252	261	917	4,834	5,751
情報基盤センター	88	1	89	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際連携機構	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高等教育推進機構	2,581	648	3,229	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院教育推進機構	111	10	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合博物館	10,793	3,561	14,354	8	0	8	109	3	112	0	0	0	117	3	120
北方生物圏フィールド科学センター	6,462	1,827	8,289	7	6	13	0	1	1	0	0	0	7	7	14
大学文書館	3,717	83	3,800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務局	0	0	0	13	1	14	0	0	0	0	0	0	13	1	14
アイヌ・先住民研究センター	4,821	671	5,492	10	6	16	70	4	74	0	0	0	80	10	90
人間知・脳・AI研究教育センター	16	17	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
創成研究機構	19	3	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1,975,715	1,771,909	3,747,624	10,748	1,394	12,142	5,987	5,747	11,734	1,468	783	2,251	18,203	7,924	26,127

※「所蔵冊数」は、当該部局に配架されている図書等の冊数。  
 ※「受入冊数」は、当該部局予算による購入・製本、及び当該部局において寄贈受入した図書等の冊数で、別部局に配架した図書等を含む。なお、移動（部局をまたぐ現在変更）に伴う増減、除却に伴う減少は含まない。

## 電子ジャーナル提供タイトル数

出版社系パッケージ	タイトル数		計
	和	洋	
IEEE/IET Electronic Library	0	383	383
Oxford Journal Collection	0	342	342
ScienceDirect (Elsevier)	0	2,273	2,273
Wiley Online Library	0	1,353	1,353
その他	30	2,005	2,035
<b>小計</b>	<b>30</b>	<b>6,356</b>	<b>6,386</b>
アグリゲータ系パッケージ	タイトル数		計
	和	洋	
BioOne Complete	0	218	218
EBSCO Academic Search Premier	0	4,647	4,647
JSTOR	0	185	185
ProQuest	0	9,040	9,040
メディカルオンライン	1,579	0	1,579
<b>小計</b>	<b>1,579</b>	<b>14,090</b>	<b>15,669</b>
<b>合計</b>	<b>1,609</b>	<b>20,446</b>	<b>22,055</b>

(R6.3.31 現在)

## 電子書籍提供タイトル数

プロバイダ	タイトル数		計
	和	洋	
ACM Digital Library	0	12,471	12,471
EBSCOhost	289	1,995	2,284
Elsevier	0	1,328	1,328
Kinokuniya Company Ltd. (KinoDen)	3,517	6	3,523
Meteo, Inc. (メディカルオンライン)	809	0	809
NetAdvance (ジャパンナレッジ)	1,608	2	1,610
ProQuest Ebooks	0	1,170	1,170
Springer Nature	0	26,461	26,461
Wiley	0	1,180	1,180
丸善雄松堂株式会社 (Maruzen eBook Library)	6,806	1,521	8,327
その他	174	858	1,032
<b>合計</b>	<b>13,203</b>	<b>46,992</b>	<b>60,195</b>

(R6.3.31 現在)

## 契約データベース一覧

ABSEES (American Bibliography of Slavic and East European Studies)
Biological Science Collection
CAS SciFinder®
CINAHL
CNKI：中国学術文献オンラインサービス
EconLit
Lexis (旧 Lexis Advance)
MarinLit
MathSciNet
Oxford English Dictionary
ProQuest Dissertations & Theses A&I
Reaxys
Sociological Abstracts
TAIR (The Arabidopsis Information Resource)
Ulrichsweb (Ulrich's Periodicals Directory)
Web of Science Core Collection
医中誌 Web
ジャパンナレッジ Lib
日経 BP 記事検索サービス
日経テレコン 21
法科大学院教育研究支援システム (LEX/DB インターネット)
法情報総合データベースサービス (第一法規)

(R6.3.31 現在)

利用統計

令和5年度利用統計（対象期間：R5.4.1～R6.3.31）

区分	入館者数			貸出統計			相互協力				学内 ILL		レファレンス件数
	学内	学外	計	学生	その他	計	複写依頼	複写受付	貸借依頼	貸借受付	依頼	受付	
附属図書館（本館）	241,405	13,448	254,853	96,344	26,101	122,445	2,607	1,695	833	1,027	151	77	219
附属図書館（北図書館）	490,607	760	491,367	105,908	15,623	121,531	87	19	69	51	17	10	760
文学研究院・文学部図書室	1,830	8	1,838	270	23	293	-	-	-	-	-	-	366
経済学院・経済学部図書室	5,930	-	5,930	368	65	433	-	-	-	-	-	-	96
医学研究院・医学院・医学部図書室	26,603	92	26,695	4,815	1,063	5,878	476	221	14	2	12	130	147
歯学研究院・歯学院・歯学部図書室	21,680	12	21,692	3,676	1,439	5,115	23	24	0	2	1	15	278
工学研究院図書室	59,925	74	59,999	14,220	3,486	17,706	85	90	6	16	14	12	95
獣医学研究院図書室	-	3	3	896	274	1,170	44	36	0	8	1	21	-
水産科学研究院・水産科学院・水産学部図書室	32,078	11	32,089	3,375	236	3,611	39	13	271	27	14	6	433
地球環境科学研究院図書室	2,061	3	2,064	571	167	738	25	9	2	6	7	2	20
理学研究院・理学院・理学部図書室	10,171	-	10,171	7,059	1,864	8,923	96	72	20	31	27	27	116
薬学研究院・薬学部図書室	27,133	3	27,136	1,687	71	1,758	12	15	0	0	3	5	-
農学研究院図書室	38,086	32	38,118	4,838	620	5,458	99	127	15	32	16	25	94
教育学院・教育学研究院図書室	3,823	-	3,823	404	26	430	-	-	-	-	-	-	37
保健科学研究院図書室	25,077	33	25,110	1,771	338	2,109	276	87	1	5	69	15	226
低温科学研究所図書室	626	1	627	150	13	163	6	24	0	5	10	7	70
北キャンパス図書室	2,807	-	2,807	61	84	145	5	9	6	1	11	1	12
<b>計</b>	<b>989,842</b>	<b>14,480</b>	<b>1,004,322</b>	<b>246,413</b>	<b>51,493</b>	<b>297,906</b>	<b>3,880</b>	<b>2,441</b>	<b>1,237</b>	<b>1,213</b>	<b>353</b>	<b>353</b>	<b>2,969</b>

文学部、経済学部、教育学部は相互協力を附属図書館が担当

主要な電子ジャーナルのアクセス件数  
（対象期間：R5.1.1～R5.12.31）

出版社系パッケージ	件数
ScienceDirect (Elsevier)	881,001
Wiley Online Library	387,686
Oxford Journal Collection	71,224
IEEE/IET Electronic Library	24,692
その他	1,005,061
<b>小計</b>	<b>2,369,664</b>
アグリゲータ系パッケージ	件数
メディカルオンライン	57,495
ProQuest	26,166
JSTOR	19,752
BioOne Complete	5,689
EBSCO Academic Search Premier	5,580
<b>小計</b>	<b>114,682</b>
<b>合計</b>	<b>2,484,346</b>

主要な電子書籍のアクセス件数  
（対象期間：R5.4.1～R6.3.31）

プロバイダー	件数
NetAdvance (ジャパンナレッジ)	119,982
丸善雄松堂株式会社 (Maruzen eBook Library)	30,780
Kinokuniya Company Ltd. (KinoDen)	16,851
Springer Nature	7,810
Elsevier	3,063
Wiley	1,185
ProQuest Ebooks	1,517
EBSCOhost	875
<b>合計</b>	<b>182,063</b>

図書館 HP 等の利用（対象期間：R5.4.1～R6.3.31）

区分	学内	学外	計
図書館 HP のアクセス数	2,214,522	6,974,135	9,188,657
OPAC の検索回数	667,655	2,351,737	3,019,392
HUSCAP ダウンロード件数	63,008	9,665,026	9,728,034
北方資料データベースアクセス件数	225,473	5,728,642	5,954,115
X (旧 Twitter) フォロワー数 (R6.3.31 現在)	-	-	2,325

主要なデータベースのアクセス件数  
（上位 15 データベース）（対象期間：R5.4.1～R6.3.31）

データベース名	件数
Web of Science	328,412
CAS SciFinder®	169,364
ジャパンナレッジ Lib	137,077
医中誌 Web	113,813
日経テレコン 21	107,263
MathSciNet	39,755
MarinLit	32,759
Reaxys	30,572
CNKI：中国学術文献オンラインサービス	27,790
TAIR：The Arabidopsis Information Resource	18,602
日経 BP 記事検索サービス	15,879
LEX/DB インターネット	5,235
CINAHL	4,533
Lexis	4,283
EconLit	2,603
<b>合計</b>	<b>1,039,566</b>

# 図書館委員会名簿

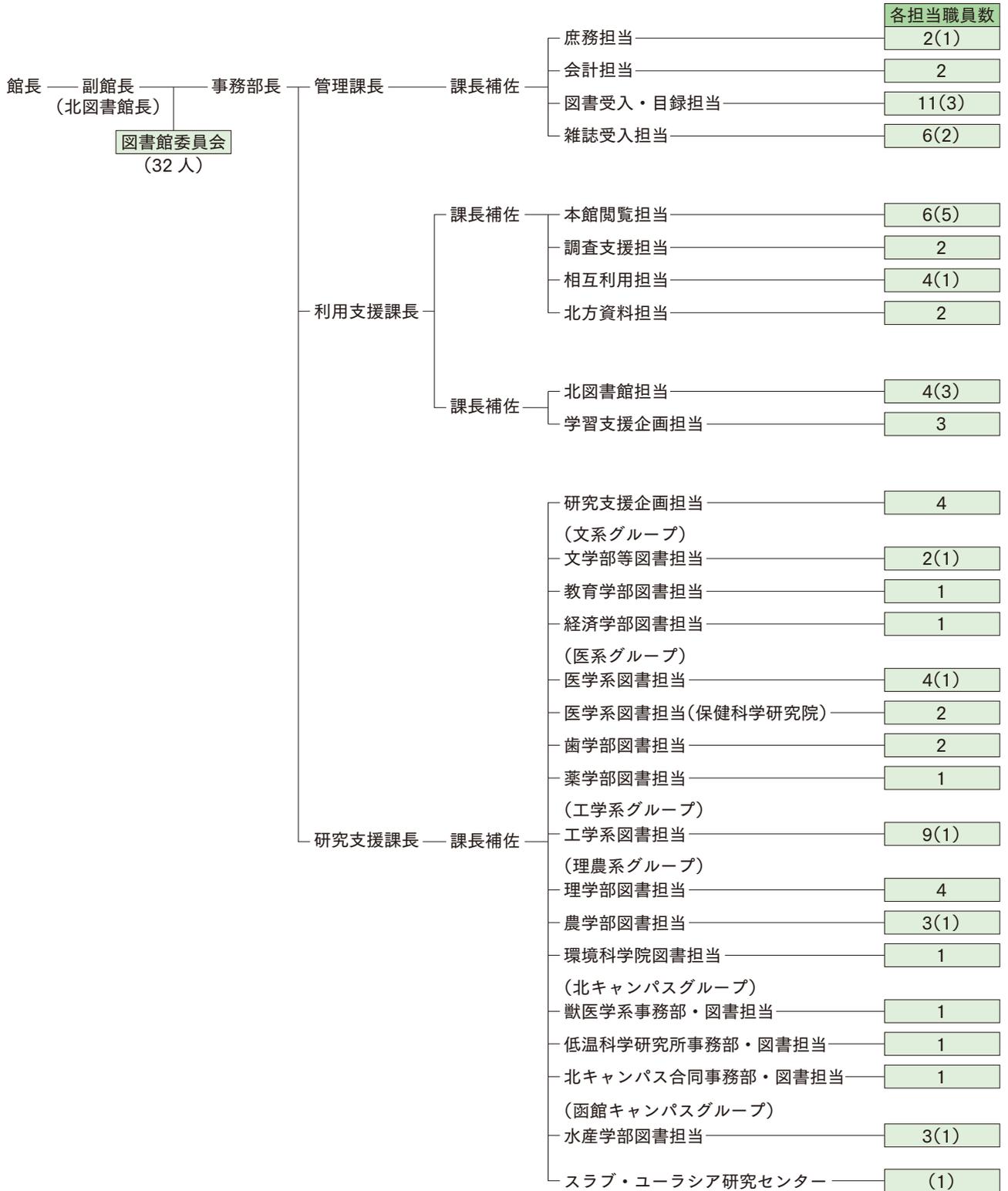
## 令和6年度図書館委員会委員名簿

令和6年4月1日現在

所 属	職 名	氏 名
理事・副学長	館 長	山 本 文 彦
大学院獣医学研究院	副 館 長	稲 葉 睦
大学院法学研究科	教 授	會 澤 恒
大学院水産科学研究院	教 授	和 田 哲
大学院地球環境科学研究院	准 教 授	廣 川 淳
大学院理学研究院	准 教 授	松 永 悟 明
大学院薬学研究院	准 教 授	大 西 英 博
大学院農学研究院	教 授	尾之内 均
大学院先端生命科学研究院	教 授	相 沢 智 康
大学院教育学研究院	教 授	池 田 恵 子
大学院メディア・コミュニケーション研究院	准 教 授	山 田 悦 子
大学院保健科学研究院	准 教 授	岩 本 幹 子
大学院工学研究院	教 授	菊 地 竜 也
大学院経済学研究院	教 授	岩 田 智
大学院医学研究院	教 授	岩 崎 倫 政
大学院歯学研究院	准 教 授	吉 村 善 隆
大学院獣医学研究院	准 教 授	森 下 啓 太 郎
大学院文学研究院	教 授	佐 藤 健 太 郎
大学院情報科学研究院	教 授	小 林 孝 一
大学院公共政策学連携研究部	准 教 授	開 出 雄 介
北海道大学病院	教 授	坂 本 直 哉
低温科学研究所	准 教 授	白 岩 孝 行
電子科学研究所	准 教 授	平 井 健 二
遺伝子病制御研究所	准 教 授	紙 谷 尚 子
触媒科学研究所	准 教 授	飯 田 健 二
人獣共通感染症国際共同研究所	准 教 授	大 場 靖 子
スラブ・ユーラシア研究センター	教 授	青 島 陽 子
高等教育推進機構	准 教 授	石 川 奈 保 子
附属図書館事務部	事務部長	久保田 壮 括
附属図書館管理課	課 長	樋 口 秀 樹
附属図書館利用支援課	課 長	横 井 有 紀
附属図書館研究支援課	課 長	鶉 澤 和 往

# 組織図

(令和6年4月1日現在)



※ ( ) 内は非正規職員で外数

職名	事務部長	課長	課長補佐	係長	係員等	合計
計	1人	3人	4人	28人	54(21)人	90(21)人

※ ( ) 内は非正規職員で外数

## 北海道大学附属図書館年報 2024

発行 令和 6 年 8 月

編集 北海道大学附属図書館

〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL : 011-706-2967 FAX : 011-747-2855

Homepage : <https://www.lib.hokudai.ac.jp>

X (旧Twitter) : [https://twitter.com/Hokudai\\_Library](https://twitter.com/Hokudai_Library)



Homepage



X (旧 Twitter)